

平成29(2017)年「正覚寺報」3月号

ご案内

正覚寺永代経 3月4日(土)13時半～

永代経には、お馴染みの田淵幸響布教使様にご出講戴きます。正覚寺オリジナルの仏教讃歌“ふとあおぎみるおすがたは”の作曲者でもいらっしやいます。童謡、ふるくから歌い継がれてきたいぶし銀のような歌をも含めて、胸に染み入る“演奏ご法話”が営まれます。

皆様にはお誘い合せ賑やかにご参り下さい。

七百五十回大遠忌実行委員会 3月5日(日)19時

第2回実行委員会が開催されます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

仏教婦人会例会 3月16日(木)19時半～

仏教婦人会恒例の例会です。寺院活動の中で最も地道で大切な営みです。お一人でも多くの皆様の参加をお待ちしております。

第一回大遠忌実行委員会が開催されました

去る2月5日(日)その第一回会合が開催され、大遠忌を営むに当たっての基本的枠組みの確認が行われました。

“伝道教学構築の可能性”が緒に就きました

昨年末、住職は、12月21日(水)歴史的にも緒ある 校研究発表会で「伝道教学構築の可能性」について発表させて頂き、2月13日、投稿論文を提出し終わりました。

その経過は、不思議なことの連続でした。

初秋は、9月に入ったばかりのある日、晨朝(おあさじ)のお勤めをしておりますと、如来様が「 校があるで」とおっしゃったのです。

そうでした、毎年12月には 校の研究発表の機会があるのでした。その申し込み締め切り日が確か9月早々だった筈です。

急いで電話を入れますと、締め切り三日前だ

ったのです。発表要旨を添えて提出しますと「今年は希望者が多いのです。」というのでこれはご遠慮しなければと思っております最中、「発表されたい」とのご許可が届いたのです。

けれども、発表するにはある種のインパクトある契機が必要です。それが二つ目の不思議だったのです。大田利生先生の仏説無量寿経勉強会のゼミ(これは次世代にお聖教研鑽の気運を伝えようとする勉強会)に先生がお持ち下さった論文掲載誌を下に参加者への配布資料を用意すると同時に前後の論文にも目を通します。その中に石田慶和先生の「親鸞理解の推移について」という御論文があったのです。これは今度の発表に際して書き出しの客観性/信頼性を担保するには格好の先行文献だと直感しました。その中に今一つ鈴木大拙師の「称名即聞名」の円環的運動という論旨のご紹介がありました。これは、小論文のコンセプトの妥当性を担保するに十分な先行文献でした。

三つ目は、研究発表当日朝、楽しみに夢の中であるお方がお話のお相手をして下さいました。めざめてそのお方が梯 實圓和上であると気付きました。私は、そのとき「お浄土から和上が還相の菩薩様となって現れて下さったのだ」と思いました。

四つ目は、年開けて、御門徒さんのご法事にお参りしました。そこで、「讃阿弥陀仏偈第三十番」に出遇ったのです。これを投稿論文に織り込むのにそう時間は掛かりませんでした。

「今日中に寝返りをうつ」と若い母親が言った言葉通りに一歳に満たない次女が私の前で寝返りを打ちました。五歳の長女が「よかったねえ」と次女に話しかけました。「のんののさま」のお歌を皆で歌い、私達は仏様の子供であることを喜ばせて戴いたのでありました。合掌。